

〈研究ノート〉

## 「言い誤り」(speech errors)の傾向に関する考察(IV)

伊藤 克敏

This is the fourth in a series (1988, 1992, 1999) of my research on the tendencies of speech errors committed by adults. Collected speech errors were analyzed on phonological, morphological, syntactic and semantic levels. Similarities and differences between adult and child speech errors were discussed. It was pointed out that the typology of speech errors can be established by comparative study of adult speech errors, developing child language, aphasic speech and speech of senile dementia.

キーワード：順行同化，逆行同化，発音の容易化，混合，退行現象

### はじめに

伊藤(1988, 1992, 1996)に引き続き，収集した言い誤りの資料を音声レベル，形態(語)レベル，統語レベル，意味レベルの順に分析，考察して行く。

### 1. 音声レベルの誤り

#### A. 同化現象

##### a. 順行同化

- (1) ちゃんとやっと(て)あった
- (2) エナマ(メ)ル
- (3) きゅうきょ(こ)う (休講)
- (4) ちょうりょう (長老)
- (5) きゃくせんのりよきゃきゅ (客船の旅客)

- (6) せいてんのせ(へ)きれき (晴天の霹靂)
- (7) せいかつのこうじょうをはかるためる(の)
- (8) だんたん(い) (団体) さん
- (9) しょうしょ(そ)く (消息) すじのすいさつ

(2) では enameru の /e/ が前の /a/ に同化したもので、ヤコブソン (R. Jakobson, 1968) のいう「原音」(optimal vowel) の /a/ の方に変化しやすいということであろう。(9)/s/ の /sh/ にへの転移は一般的で幼児音や方言音でよく見られ、発音の容易化 (easing) の一種と言えよう。(8) は前後の「ん」の影響と考えられ、順行同化か逆行同化か決め難い。

#### b. 逆行同化

- (1) このへ(ぶ)んへん (この文変) だね
- (2) かん(い)だん (階段)
- (3) ぺ(プ)ロフエショナル
- (4) しんりがげんごがく
- (5) ね(に)てるね (似てるね)
- (6) くっ(う)ほ (空母) ミッドウエイ
- (7) きんぞくりょう(ろう)きょうの (金属労協の)
- (8) けっぱ(か)はっびょう (結果発表)
- (9) えいがのきゃ(か)んきゃく (映画の観客)
- (10) きをつ(き)かせたつもりで (気をきかせたつもりで)
- (11) うんぜ(て)んのあんぜん (運転の安全)
- (12) おひゃくそ(しょ)うさん (お百姓さん)
- (13) さっしょ(そ)くしょうかいしましょう (早速紹介しましょう)
- (14) しんこうこ(ほ)うこう (進行方向)
- (15) ほき(け)んきん (保険金)
- (16) が(か)いだん (階段)

逆行同化とは後の音が前の音に影響を与え、前の音が後続の音に同化する現象である。(5)において「に」が「ね」の緊張音 [i] が弛緩音 [e] の方に変化するという現象は極めて一般的で、すでに伊藤 (1992) で指摘したように方言音や幼児音でも見られる。また、(7) (9) の口蓋化 (palatalization)

は一種の発音の容易化(easing)現象といえよう。(12)と(13)は「さ」と「しゃ」変化方向が逆になっている。(14)は順行同化か逆行同化か判断し難い。

## B. 母音転移

### a. [u] → [o]

じほ(ぶ)ん

[u]が[o]に転移する例は比較的少ない。

### b. [o] → [a]

大阪となが(ご)や(名古屋)を結ぶ…

おおくば(ほ)(大久保)

ひら(ろ)がった

しっぱ(ほ)

うみがよが(ご)れて…

なるは(ほ)ど

伊藤(1992)で指摘したように、[o]から[a]への転移は方言や幼児語(「トウサン」が「タアサン」と発話される時期が観察されている)にみられる。これはすでに指摘したように[a]が最善母音で、早く習得されることと関係があるのかも知れない。

### c. [u] → [i]

いってき(く)れば

[u]と[i]の転移は音韻変化や方言(例、「にじ」(虹)が「ぬじ」と発音される場合がある)でよく見られる(伊藤(1996)参照)。

### d. [u] → [a]

ごはんがうまく炊けなか(く)って

この転移例は比較的少ない(伊藤 1988, 1992)。

## e. [e] → [a]

あま(め) (雨) が…

今回の収集例は少ないが、伊藤(1992)では13例ある。「そうですか」を「そうですか」と発話する方言がある(伊藤1992)。

## C. 子音転移

## a. [b] → [p]

かんぼ(ぼ)うちょうかん (官房長官)

## b. [ts] → [ch]

ししゅちゅ(つ) (支出)

## c. [ch] → [t]

タライにた(ちゃ)んとはって

## d. [sh] → [ch]

ゆうちょう(しょう) (優勝) しました。

伊藤(1992)で、[ch], [t], [ts] [sh]の転移方向についての仮説を提示しているが、[ts]から[ch], [ts]から[t]へ、また、[sh]から[ch]への誤用方向が一般的で、その逆の誤用は少ない。

## e. [r] → [d]

おうひだ(ら) (大平) だいじん

本例では一種の逆行同化とも考えられるが、[r]音が[d]音に転移する例は幼児音、方言音によく見られるもので、発音の容易化現象とも考えられる。

## f. [k] → [p]

ストップ(キ)ング

[k]と[p]は同じ破裂音であるので転移しやすいと言うこともあるが、伊藤(1992, p. 42)で指摘しているように、後方音より前方音の方が発音しやすいという音転移方向の一般原則が作用していると考えられる。

#### D. 音脱落

- (1) あい(り)がとう
- (2) のい(り)まき
- (3) いない(り)ずし
- (4) 海水はしょっか(ら)いです
- (5) 遠すい(ぎ)た
- (6) スキ(に)しなさい
- (7) わ(か)りました
- (8) あ(ま)めが甘い
- (9) 緊張な(さ)らず
- (10) あきら(め)顔で
- (11) イチゴのショー(トケー)キ
- (12) もった(い)ない

(1)から(3)は(r)音が脱落している。[r]音は発音困難音で幼児の習得も遅く、従って脱落しやすいと考えられる。英語話者も /r/ や /l/ 音は脱落しやすい。(9)の /s/ 音(12)の /i/ は緊張音であるので脱落しやすい(伊藤 1988)。

#### D. 音交換

- (1) 3ヶ月ぶりはん(半ぶり)ですね。
- (2) ふいんき(雰囲気)
- (3) ますばつ(バス待つ)
- (4) 1929年の大こうきょう(恐慌)
- (5) 重どうろう(労働)
- (6) たかしやま(高島屋)
- (7) ナンキュウとハンカイ(南海と阪急)
- (8) おじゃまたくし(おたまじゃくし)
- (9) といそげる(添い遂げる)

(1) (4) (5) は 2 字づつが逆転している誤用で, (2) (3) (9) は一音を挟んで逆転している。(8) は「ナン」と「ハン」と同じ音環境で [h] と [n] が交換している。

## 2. 語形上の誤用

### A. 形態音形上の誤用

- (1) 帰りたい(く)ない
- (2) 行きたいいかった
- (3) 汚い(く)ない
- (4) のんだ(じゃ)った
- (5) 持ってき(こ)ないよ

これらの誤用は形態音形 (morphophonemic) 上の調整が成されないまま発話されたものである。こういった誤用は幼児や日本語習得上の外国人も犯しやすい誤りである (伊藤 1985)。

### B. 語句脱落

- (1) つごうのいい (とき) だけ
- (2) ケーキ (のはこ) になにはいってる
- (3) こんぼん (てき) な…
- (4) 師走は (ねこの) 手も借りたい時期

発話を急ぐと, 場面とか前後関係から推測できるような語句が省略されてしまうと考えられる。

## 3. 統語上の誤用

### A. 交換

- (1) ご飯帰って食べて (食べて帰って)
- (2) ドアーズつきみ野 (つきみ野ドアーズ) 店
- (3) 手でひもを (ひもで手を) 縛る
- (4) 早くごはん食べて起き (起きてごはん食べ) なさい
- (5) 聞き分けなんて言いたくない (言い分けなんか聞きたくない)
- (6) 取れば多いってもんじゃないでしょう (多く取ればいいってもん)

じゃないでしょう)

- (7) キャプテン部の… (体操部のキャプテン)
- (8) 小田急町田店 (町田小田急店)
- (9) ごはん帰って食べて (食べて帰って)
- (10) しんきん間 (親近感)
- (11) 目がゴミ (ゴミが目に入った) に入った
- (12) なんきゅうはんかい (阪急南海)
- (13) げいしゃたつ (芸達者)
- (14) がけの家の上 (がけの上の家)
- (15) トマトの間に歯がつまる (歯の間にトマトがつまる)
- (16) 口で手をおおいなさい (手で口をおおいなさい)

固まった意味単位を成す語句の内部では交換が起こりやすい。(1)-(4)(8)(9)は隣同士の語が逆転している例で、(5)(14)(15)(16)は語句を挟んでの逆転となっている。また、(7)は逆転に気付いて途中で発話を中止した例である。英語を母語とする話者の混合(blending)を起こす例は多く報告されている(伊藤 1992 p. 45)。

## B. 混合

- (1) クーキ (クッキーとケーキ)
- (2) たぷさん (たっぷり+たくさん)
- (3) さむたい (寒くてねむたい)
- (4) 事由に (という事情を理由に…)
- (5) 車をはらってね (車を晴れた日に洗ってね)
- (6) おどいて (おどき+どいて)
- (7) ちゅびん (お茶とびんを持って来て)
- (8) 伝話 (伝説や民話)
- (9) さようさい (さようなら+おやすみなさい)
- (10) 髪の毛のばくして (髪の毛のばして+ながくして)
- (11) いますかね (いますかね+おりますかね)
- (12) まるこ (パルコ+丸井)
- (13) ストレス解散 (解消+発散)
- (14) ごめんくださいます (ごめんください+しつれいします)

- (15) うさかな (うお+さかな)
- (16) きれいしい (きれい+うつくしい)
- (17) てかる (照る+光る)
- (18) ブシ (ブラシ+くし)
- (19) さっぼれ (札幌は晴れ)
- (20) やんまり (やっぱり+あんまり)
- (21) ピンツ (ピンクのパンツ)
- (22) しんこんしき (新婚旅行+結婚式)
- (23) りかん (りんご+みかん)
- (24) いますかね (いますかね+おりますかね)
- (25) ろうしぼうか (老化防止)
- (26) みっせん (どくせんみっちゃく)

2語が混合して1語になっている混合語(1)(2)(3)などの例が圧倒的に多いが、(5)(10)(26)のようにかなり複雑な混合もある。いずれにしても、発話を急いだり、緊張したり、注意散漫の時に起こる現象と言えよう。英語を母語とする話者の混合の例については伊藤(1992)を参照されたい。尚、米見(4歳)の次の例は興味深い。

Mommy, sit down this mediately! ('sit down this minute' と 'sit down immediately' の混合 (blend)) (Jaeger 2005 p. 468)

#### 4. 意味上の誤り

##### A. 類似性

- (1) (気の毒だと) 鼻を (声を) つまらせた。
- (2) 結婚式 (誕生日)
- (3) 子どもがいつもご迷惑 (お邪魔) しまして
- (4) 着太り (着ぶくれ)
- (5) 野性 (自然) の中にいきてる
- (6) くちびる (くちばし)
- (7) 気温の大きさ (高さ)
- (8) 公式 (公正) に行われる
- (9) 飛行機が走ってる (飛んでる)



- (10) 6周年 (6周忌)
- (11) 事実 (現実)
- (12) 今度 (今後) 共よろしくお願いします

(2) は両方ともお目出度い日という意味の共通性がある。(3) お邪魔して、ご迷惑をかけるという意味の関連性からの誤りと思われる。(5)の「野性」と「自然」も意味の類似性がある。(7)の気温の「大きさ」と「高さ」は幼児も混同しやすい(伊藤 1990)。(9)の「走っている」と「飛んでいる」は地上と陸上の違いで意味的に類似している。(12)の「今度」と「今後」は音声的にも似ているが、未来を志向している意味の類似性があるといえよう。

#### B. 反意語

- (1) ただいま (おかえり)
- (2) 欠席 (出席) したら
- (3) やめなくちゃ (続けなくちゃ) ならない
- (4) 私は人の名を覚えるのが得意 (苦手) です
- (5) 汚れた水より汚い (きれいな) 水を好みます
- (6) (結婚式を) 挙げてくれたんだね (もらったんだね)

反意語を言い間違えで発しやすいということは脳内での語彙の記憶が表裏一体でなされていることが伺える。

Jespersen (1922 p. 120) は幼児が時の概念を表す表現の習得において例えば yesterday と tomorrow と間違えやすい、と述べている。また、2歳児が hot と cold といった反意語の使用も間違えると、次のような例を挙げている。

“Daddy, my pinny is too hot (cold); I must warm it at the fire.”

また、Jaeger (2005 pp. 338-389) でも幼児は see/hear, eat/drink, shoes/socks などといった類似語の間違えをしやすいと指摘している。

### C. 過剰表現

- (1) 拳式を挙げた
- (2) 骨折を折る
- (3) 新しく新調する

このような過剰表現はかなり多く、相手に意図を確実に伝えようとする話し手の無意識的な努力とも解釈できよう。例えば、「新しい新人」とか「馬から落馬する」といった過剰表現はよく見られる（伊藤 1992）。

### D. 使役・自動詞・他動詞

- (1) 脱いで(脱がせて)ちょうだい
- (2) 太くなる(する)ことができる (TV)
- (3) 消え(し)とこか

使役、自・他動詞の誤用はよく見られる現象で、習得途上にある幼児も類似した表現をある発達段階で用いる。このことからこういった誤用は一種の退行現象であると判断される（伊藤 1996）。

### E. 能動・受動態

割れる（割られる）

### F. 可能

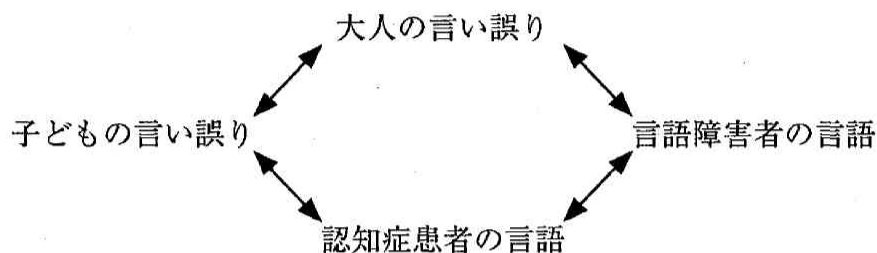
いろんなものが得れてる（得られてる）と思う

このような表現は現在よく使われつつあるのではなかろうか。

### むすび

言い誤りの研究は 1970 年代からかなり精力的に行われて来た (Fromkin 1973; Cutler 1982)。誤用も「言い誤り」から、書き誤り、また、手話の誤りまで多様性が加えられて来た (Fromkin ed. 1980)。最近では、母語と第 2 言語の誤用の比較 (Poullisse 1999) とか、子どもの言い誤りの研究、そして子どもと大人の言い誤りの比較研究も行われている (Jaeger 2005; 伊藤 1990)。

更に、すでに指摘したように、大人の誤用は一種の退行現象 (regression) であることは子どもの習得途上の言語との比較で明らかであり、言語障害者の言語使用の研究に誤用研究が貢献するところ大であることが予測され、また、認知症患者の言語との関係の研究も今後の課題であろう (伊藤 2005)。



これら4者の言語現象それぞれの研究と4者間の比較研究によってことばの誤用のより総合的な研究がなされ、ことばの誤用の類型 (typology) が明らかにされるであろう。

#### 参考文献

- Cutler, A. (ed.) 1982. *Slips of the Tongue and Language Production*. Amsterdam: Mouton.
- Fromkin, V. A. (ed.) 1973. *Speech Errors as Linguistic Evidence*. The Hague: Mouton.
- . 1980. *Errors in Linguistic Performance: Slips of the Tongue, Ear, Pen and Hand*. New York: Academic Press.
- 伊藤克敏. 1988. 「『言い誤り』(speech errors)の傾向に関する考察(I)」『神奈川大学言語研究』第11号.
- . 1990. 『こどものことば—習得と創造』勁草書房.
- . 1992. 「『言い誤り』(speech errors)の傾向に関する考察(II)」『神奈川大学言語研究』第14号.
- . 1996. 「『言い誤り』(speech errors)の傾向に関する考察(III)」『神奈川大学言語研究』第18号.
- . 2005. 『ことばの習得と喪失—心理言語学への招待』勁草書房.
- Jaeger, J. J. 2005. *Kids' Slips. What Young Children's Slips of the Tongue Reveal About Language Development*. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum.
- Poullisse, N. 1999. *Slips of the Tongue: Speech Errors in First and Second Language Acquisition*. Amsterdam: John Benjamins.